

暗唱、がんばっていきまっす！

小値賀小学校の伝統的な取組の一つに、詩や古典の暗唱があります。私が知る限りでは平成16年度から20年度までいらっしゃった浦校長先生が始められたのではないかと思います。その頃は浦校長先生の整った字で書かれた手書きのテキストだったように記憶しています。現在は、テキストこそパソコンで作成してありますが、この取組が今までしっかりと続いているのですから驚きです。そのうちに、「自分もやった！」という保護者の方も登場するのではないのでしょうか。この暗唱のねらいは以下の通りです。

- ①美しい日本語の表現やリズムなどにふれることを通して、語彙力や表現力の向上を図る。
- ②児童一人一人に暗唱テキストを配布し取り組ませることを通して、自分で目標を定め、集中して粘り強く学習に取り組む態度や習慣を育てる。



でも、それだけではなく、暗唱は、脳科学の面かも脳の活性化や物事を深く考える力・思考力を育てるといった報告もあります。いつまでも覚えてはいかないかもしれないけれど、粘り強く鍛えるというのは、この期の子どもたちに大きな成果があるようです。

さて、小値賀小学校での暗唱の方法ですが、各学年基本のテキストがあります。どの学年も、わりと耳にしたことがありそうな簡単な詩と古典などの難解な文が散りばめられています。

例えば1年生・上級編には、童謡「どこかで春が」や「やぎさん ゆうびん」というように、NHKの「おかあさんといっしょ」で聞いたような簡単な詩があるかと思えば、各学年の一般テキス

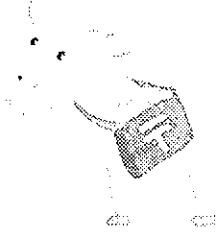
トの最後は、宮沢賢治「アメニモマケズ」で終わっています。聞き慣れた詩と難しい漢詩や古典、なおかつ学年をまたいで繰り返し出てくる良く考えられたテキストです。

小値賀バージョン暗唱のシステムとしては各学年の一般テキスト→各学年上級テキスト→スペシャル名人テキスト→都道府県名人テキストというようにテキスト自体が進級していきます。一つ一つの課題ごとに担任に聞いてもらって、覚えていけば「合格！」印鑑をもらえます。加えて、テキストの所々には「校長」というチェック欄があって、いくつかの担任の合格印をもらうと、私のチェックが入ります。学校全体としては金曜日の朝の時間を設定していますが、私一人では多すぎる挑戦者の対応ができないので、教頭や養護教諭、理科担当にも手伝ってもらっています。また、校長室には休み時間や放課後に度々子どもたちがやってきては挑戦しています。

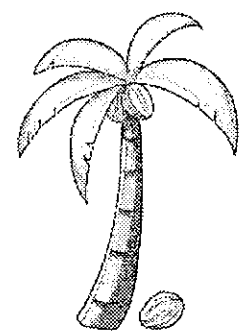
各学年、一般テキストの合格者、スペシャル名人、都道府県名人の合格者は学期末に表彰しています。来週の学校だよりでは、1学期に合格した子どもたちを紹介する予定です。



やぎさんゆうびん まどみちお
 しろやぎさんから お手紙ついた～
 くろやぎさんたら 読まずに 食べた～
 仕方がないので お手紙書いた～
 さっきの 手紙の ご用事なあに～♪



椰子の実 島崎 藤村
 名も知らぬ遠き島より 流れ寄る椰子の実一つ
 故郷の岸を離れて 汝はそも波に幾月
 旧の樹は生いや茂れる 枝はなお影がやなせる
 われもまた渚を枕 孤り身の浮き寝の旅ぞ
 実をとりて胸にあつれば 新たなり流離の憂い
 海の日沈むを見れば 激り落つ異郷の涙
 思いやる八重の汐々 いずれの日にか国に帰らん



「椰子の実」は4年生の一般テキストに含まれています。覚えようと思ったら難しいですね。

世界に誇る日本のマナー

7月6日(金)校長講話より



日本中を暑くさせたサッカーワールドカップも、残すところ決勝戦のみになりました。苦しい試合運びの中で、番狂わせとも言えるような劇的なシュートがあったり、「半端ないって」という言葉が流行ったり、残されたわずか数秒に泣いたり、いろいろなことを感じさせてくれる日本代表の健闘ぶりでした。

さて、このワールドカップ本戦に日本が初めて出たのは、1998年フランス大会です。これ以降、日本は6大会連続で本戦出場を勝ち取っています。アジア地域では毎回、40チームを超える登録がある中、4～5チームしか本戦出場を果たせないのですから、それを勝ち取るだけでもたいへんなことです。

1998年フランス大会は、「我が日本が初めてワールドカップに出た!」ということで、日本中大賑わいでした。何といたってもその前の1994年アメリカ大会・アジア最終予選では、本戦出場が決まりかけていた終了間際のロスタイムで、イラクに失点を許し本戦出場が叶わなかったという、通称「ドーハの悲劇」の後の大会でもありましたから。

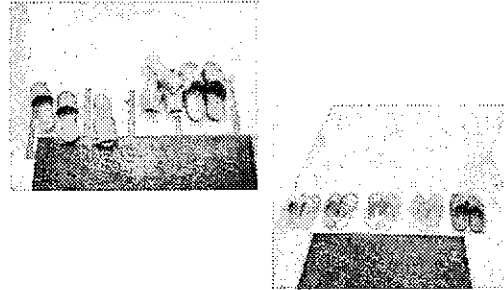
さて、20年前のこのフランス大会の成績といえば、アルゼンチン、クロアチア、ジャマイカとグループリーグで対戦して全て敗北。日本の得点も3試合の合計が1点止まりとなりました。最後のジャマイカ戦でこの1点を入れたのが、「ゴン中山」こと中山雅史選手(上の写真)です。本戦に出場できたからとはいっても、日本のサポーターには悔しさの残る内容でした。



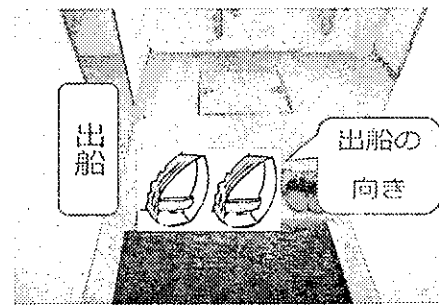
そのサポーターが今年のワールドカップまで6大会ずっと続け、世界各国から賞賛を浴びているのが試合後のゴミ拾いです。青いゴミ袋を持って、うれしい試合であろうが、悔しい試合であろうが、試合後残ってスタジアムのゴミ拾いをする日本のサポーターの姿は、ワールドカップの風物詩ともなっています。

今回もいろいろなところで報道され、他国のサポーターにも広がりつつあることをご存じの方も多いかと思えます。日本が世界に誇るマナーです。

島から日本一楽しい学校を
～みんながしまんできる学校～



子どもたちの身の回りのマナーといえ、乗り物に乗るときのマナー、食事のマナー、挨拶、スポーツのマナーなどいろいろです。そこで、「これだってマナーだよね。」と言って左の2枚の写真を見せました。どこのスリッパか聞いてみると、「低学年の男子トイレ!」と多くの子から正解の答え。もちろん、左は小学校低学年男子トイレのスリッパ、時間は子どもたちが帰った後です。右のきれいに並んでいるのは、同じ時間帯の中学校男子トイレです。「さすが」と言える並べ方です。



靴の並べ方には、昔から船に例え、「入り船、出船、出船の向き」という言葉があります。(一昨年、このことは話したので、3年生以上は覚えていました。)

ここまで話して、「マナーって、何であるんだろう?」と尋ねると、子どもたちから「他の人のため。」「みんなが気持ちよく使えるように。」という答え。そう、マナーは他人への思いやり、親切でもあります。また、それと同時に、自分をきれいに見せることでもあります。食事のマナーや立ち居振る舞いがきれいな人は、見た目よりぐっと格好良く、きれいに見えます。

「いくらイケメンでも、ご飯粒飛ばすようなガツガツした食事の仕方だと、デートのとき幻滅だよ。世界に自慢できるようなマナーを私たちも身につけようね。」という話でした。

お礼

先日の本校、毛利教諭の急逝(病死)につきましては、保護者の皆様のみならず、地域の皆様にも心温まるご配慮やお志をいただきありがとうございました。保護者の皆様には、プリントにてお知らせしたところですが、この紙面を借りて、地域の皆様にもお礼申し上げます。

急な訃報で悲しみの淵に沈んでいらっしゃったご家族も、小値賀のあたたかさに救われたことを口にされ、遺骨といっしょに島を離れられました。